

# 自殺、貧困に歯止めを

## 市民団体が本出版



売り上げの半分が貧困、自殺防止の活動費に充てられる本。東京都千代田区で

貧困や自殺対策に取り組み東京都内の二つの市民団体が開いたシンポジウムの内容を報告する「自殺と貧困から見えてくる日本レポートブック」が出版された。売り上げの半分が、団体の活動費に充てられる。十二年連続で自殺者が三万人を超える中、「本を賣うこと、読むこと、誰でも防止活動に参加できる」とアピールする。

(松村裕子)

シンポジウムを開いたのは、反貧困ネットワーク(新宿区)とNPO法人・自殺対策支援センターライフリンク(千代田区)。千代田区で三月十日、鳩山由紀夫首相(当時)や長妻昭厚労働相、福島瑞穂・内閣府自殺対策特命担当大臣(当時)ら

## 売り上げの半分が活動費に

の出陣で、貧困や自殺問題を議論した。反貧困ネットワークの自殺対策チームリーダーの中下大樹さんが中心になり、大臣やパネリストの発言をまとめた。

千二百円の販売価格のうち、六百円が両団体の活動費に充てられる。発行元のウェブサイト「ウィズ出版サービス(中央区)」は、直接販売を基本にして中間業者の取り分をなくすことで、収支が合う形にした。中田宏之編集長は「人としてできることは何でもやろう」という中下さんに共感した。出版社としてできることを考えたという。

両団体は十月、富士山の樹海を抱え自殺者の多い山梨県で自殺対策集会を開く。売り上げは、集会の費用に充

てる。中下さんは「貧困、自殺は政治問題。政治を動かす世論をつくるには、まず多くの人に問題を知ってもらわないと。本を通じて、広く現状を伝え、さら文は同社(電03(5562)5281)へ。」

うれしい」と話す。B5判、百二十三頁。注文は同社(電03(5562)5281)へ。